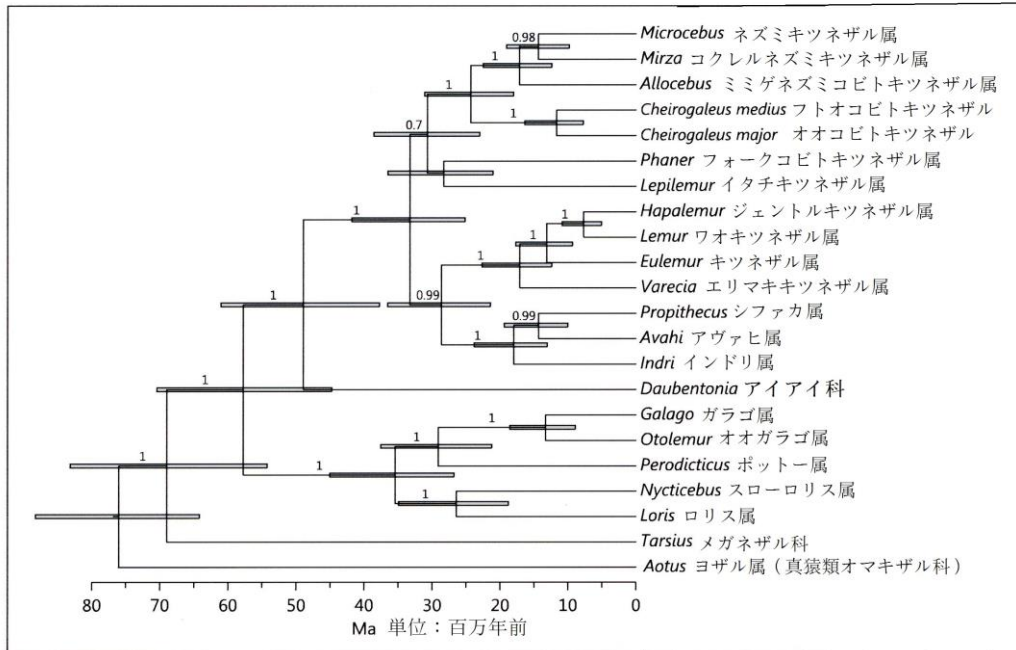


霊長類の分類と分岐年代

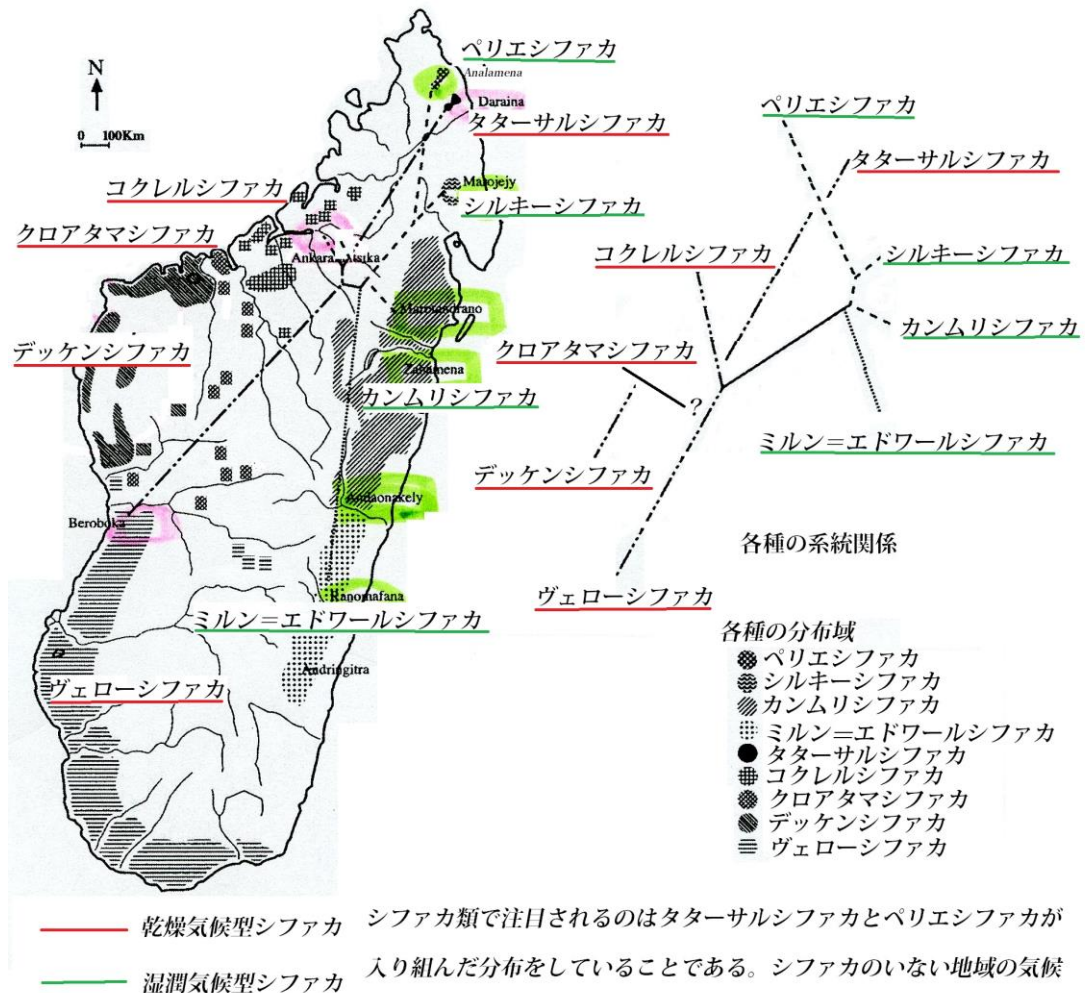
世界のサル類（霊長類）は、原猿類と真猿類に二分されるが、マダガスカルの原猿類はレムールと呼ばれている。真猿類（ニホンザルやチンパンジーの仲間）は、およそ2千万年前に現在の大きな分類群（オナガザル科やヒト科）が生まれているが、原猿類ではそれより一千万年古く、現在に続く大きな分類群（キツネザル科やロリス科）が生まれている。しかし、アイアイ科はそれよりもさらに1-2千万年前に生まれている。

アイアイの誕生は 5700 万年前かもしれない



Masters *et al.*, 2013. Seeing the wood through the trees: *Folia Primatol* 84:201-219. より

マダガスカルの原猿類の分岐時期 図の見方：アイアイが他の原猿類から分岐した時代は5700万年前で、その誤差の範囲が4000千万年前から6000千万年前であることを横の棒（薄く色付けしている）で示す。アイアイは、原猿類の中でもっとも古い起源を持っている。最下段のヨザルは、真猿類の代表としてあげているだけで、原猿類と真猿類が分かれたのは7600万年前（誤差は6500～9000万年前）である。



- P. verreauxi* ヴェローシファカ 南西部。南限はマダガスカル南端。北限はチリビヒナ川
- P. deckenii* デッケンシファカ 西部。南限はマナンブル川、北限はマハバビ川。
- P. coronatus* クロアタマシファカ西部。南限はチリビヒナ川、北限はベチブカ川。
- P. coquereli* コクレルシファカ西部北。南限はベチブカ川、北限はサンビラヌ川。
- P. perrieri* ペリエシファカ 北部北。南限はルキ川。
- P. tattersalli* タターサルシファカ。北部南。北限はルキ川、南限はベマリブ川。
- P. candidus* シルキーシファカ。東部北。北限はベマリブ川、南限はアンタイナンバラナ川。
- P. diadema* カンムリシファカ。東部中央。北限はアンタイナンバラナ川、南限はマングル川。
- P. edwardsi* ミルン=エドワールシファカ。東部南。北限はマングル川、南限はマナナラ川。南にはヴェローシファカの分布域との間に空白地帯がある。

インドリ科 *Indriidae* のレムールたち

インドリ科は、現存するレムールたちのなかでいちばん大きな種インドリとシファカ類を含んでいます。インドリがシファカ属とアヴァヒ属に先んじて分岐し、その後、シファカとアヴァヒに分岐したことが分かっています。インドリもシファカも昼行性なのに、アヴァヒは夜行性で、小柄です。しかし、インドリ科のレムールたちはどれも家族を主体にした社会構造をもっています。シファカは時に一夫一婦のペアをこえた 9 頭ほどの小型の群れを作ることもあります。

インドリ *Indri indri*

インドリは大きな声でテリトリー・ソングを歌います。それは何キロも届くほどのラップのような声です。インドリはまた、木の葉を選んで食べます。その選び方は非常に微妙で、特別な部位、たとえば新芽とか枯れかけた葉とかで、一日に食べる葉の種類も多く、捕獲して飼育しようとする試みは、すべて失敗しました。

シファカ *Propithecus*

シファカ属 9 種のうち、もっとも北に生息するペリエシファカを除く、8 種をその生息地で撮影しています。このマダガスカル固有の新芽食を中心とする特別な食性の原猿類をこのように網羅して展示するのは、日本ではこれが始めてでしょう。

シファカ属は真っ白のものからまっ黒のものまで、毛皮の色のバリエーションが豊かです。なかでもカンムリシファカは金色の手足と銀白色の胴体の色のバランスがとれていて、近くで見ると息をのむような美しさです。

シファカたちは、木の間を 7 メートルも飛ぶことができるので、金色のカンムリシファカたちが木の間を遊んで飛び回るとほの暗い森の中が輝くように見えます。

南の端に広く分布するヴェローシファカは、トゲトゲのカナボウノキ（ディディエレア）の新芽を食べます。マダガスカルでもっとも乾燥した地域なので、青空と奇妙な形の木々の中で、白い体が浮き立つようです。このトゲトゲの木の間も飛びうつるのですが、よく痛くないものです。

ノートを見入るヴェローシファカ（マリオ・ペルシュケ撮影）の姿は意外ですが、シファカたちは、非常に好奇心が強く、人にも近づいてきてのぞきこむことがよくあります。

シータ画像では、レムール・パークでのシファカがあります。好奇心の強いシファカがどんどんカメラに近づいて、最後にシータはつかまれて、ちょっとかじられました。シファカにかじられる風景はどんなものか、体験してみてください。

アヴァヒ *Avahi*

アヴァヒたちは昼間はいつも家族全員が、しっかり抱きあって寝ています。マダガスカル全土に 9 種（シファカと同じ）が確認されています。マダガスカル東海岸の熱帯雨林地域の全域と西部の一部にだけ分布していて、乾燥地帯の全域に分布するシファカときわだった違いを見せています。

マダガスカルのレムール類

写真でとりあげたものを太字で示しています。

マダガスカルのレムール類は、インドリ科のほかキツネザル科、コビトキツネザル科、イタチキツネザル科とアイアイ科の五つの科に分けられます。絶滅した大型レムール類には、パレオプロピテクス科とアーケオレムール科があり、百キロをこえるレムールが千年前まで生きていました。

コビトキツネザル科

コビトキツネザル科のレムールたちはいずれも小型で、もっとも大きなもので 600 グラム、最小のベルテネズミキツネザルは 30 グラムです。南米やアジアの霊長類で最も小さいものでも 100 グラム以上ですから、桁はずれに小型のサルがマダガスカルにいるのです。

ベルテネズミキツネザル (30 グラム) はマダガスカル西部、バオバブの並木で有名なムルンダバから北へ五十キロほど北のキリンディの森でしか見られません。

しかし、ここには、**コクレルネズミキツネザル** (300 グラム：マリオ・ペルシュケ、イギリスのブリッスル動物園) がいます。このサルは、雑食でほとんど何でも食べるのですが、時には小型のネズミキツネザルの捕食者としても知られています。

フトオコビトキツネザル (120～270 グラム：マリオ・ペルシュケ、ドイツのベルリン動物園) は、名前のおりで、雨季の間にシッポに体重と同じほどの脂肪をためて、7 カ月も続く乾燥期を休眠して乗りきるといふ特別な適応方法をあみだしています。

フォークコビトキツネザル (300 グラム：ブルノー・A・ラヴェルソン、キリンディの森) は、マダガスカル南西部と東部熱帯雨林地域の南部を除くかなり広い範囲に分布しています。これまでコビトキツネザル科に分類されてきましたが、最近の遺伝的な研究によると、コビトキツネザルよりもイタチキツネザル科との近縁が明らかになっています(原猿類の系統と分岐図参照)。シャベルのような歯で樹皮を削り、樹液をなめて食物としています。

イタチキツネザル科

イタチキツネザル科にはメガラダピスという子ウシほどもあったという記録が 18 世紀まで残されている絶滅したものが含まれますが、どちらも上顎の切歯がないウシのような歯式が大きな特徴です。現生のイタチキツネザルの仲間は 1 キログラム程度の小型で、成長した木の葉を食べ、ウサギのようにフンをもう一度食べて、栄養をとります。このイタチキツネザルの仲間は、マダガスカル全土に 28 種もいて、マダガスカルのレムールの中でもっとも繁栄しているものです。

マダガスカル最大の川、ベチブカ川は首都アンタナナリヴと西部最大の都市マジュンガを結ぶ大河ですが、その北に**ミルン＝エドワールイタチキツネザル**、その南に**アイークリスイタチキツネザル**がいます。どちらも昼間に木の洞や茂みに隠れて眠っているところでした。

マダガスカルの最南部は、半砂漠の乾燥気候ですが、**シロアシイタチキツネザル** (マ

リオ・ペルシュケ、ベレンティ私設保護区) がカナボウノキの葉を食べて生きています。

キツネザル科

マダガスカルのレムールとしてよく知られているワオキツネザルなどが含まれる、キツネザル科はおもに果実食で、体重は1キログラムから4.5キログラムです。

マダガスカルには南西部の極乾燥地域を除いて、各地に竹が生えていますが、それを主食とするレムールがジェントルキツネザルです。**サンビラヌジェントルキツネザル** (1キログラム：阿部雄介、マルジェジ国立公園) はマダガスカル北部全域に分布しています。

マダガスカルの竹には猛毒の青酸を含んでいるものがありますが、それを食べるのは**キンイロジェントルキツネザル** (1.5キログラム：チンバザザ動植物公園) です。1985年に発見され、絶滅が危惧されるとても頭数の少ないキツネザルです。

マダガスカル北部には、オスとメスで毛色が異なるふたつのキツネザルがいます。**カムリキツネザル** (1キログラム：阿部雄介、アンチラナナ私設保護区) はオスが茶色でメスが灰色ですが、**クロキツネザル** (2キログラム弱：阿部雄介、ヌシコンバ特別保護区) はオスが黒、メスが茶色です。赤ちゃんの時からオスメスの色が違うので、違ったサルの子どもを連れているように見えるかもしれません。

マダガスカル東部の熱帯雨林のほぼ全域に分布するのが、**アカバラキツネザル** (2キロ前後：阿部雄介、チンバザザ動植物公園) です。オスは目の下が白いのでメスと区別できません。

アカバラキツネザルの分布域とほとんど同じ種が、キツネザル科の中でいちばん大きい**エリマキキツネザル** (3.5キログラム：アンパヌトアマイジナ私設保護区) です。白黒の模様のバリエーションが地域で違うことでも知られています。熟した果実を丸呑みします。あごの骨がことさら華奢なのです。

ワオキツネザル (2キログラム：阿部雄介、チンバザザ動植物公園) はマダガスカルでもっとも乾燥した南西部に分布しています。日本ではよく知られていますが、マダガスカルでは、各地で絶滅が心配されています。

マダガスカルのレムールたちは、約100種もいて、ここではどうていあげきれません。アイアイについては、アイアイ・ファンドのコーナーでご紹介します。

そのレムールたちの天敵として**フォッサ** (体重10キロ：ブルノー・A・ラヴェルソン、キリンディの森) がいます。軽々と木の上を動くことができるシェパードほどの大きさのこの食肉目はマダガスカル全土にいて、レムール類の脅威となっています。これまでマンダースの仲間とされてきましたが、どうもマダガスカル固有の食肉目のようです。